

月刊 旬
ゆん

月刊ゆん編集部
TEL.0155-34-2233

クナウマガジン
northern style
スロウ

クナウマガジン (スロウ編集部)
TEL.0155-38-4188

参加するってオモシロイ
Shunplus
しゅんプラス

しゅんプラス事業部
TEL.0155-34-1283

十勝の子育てママを応援するフリーマガジン
ぺこぐ
ぺこぐ

ぺこぐ編集部
TEL.0155-34-2233

デザイン北海道事業部
TEL.0155-34-1281
WEB制作部門
TEL.0155-34-1281
動画制作部門
TEL.0155-34-1281

〒080-0046
北海道帯広市西16条北1丁目25
TEL.0155-34-1281 FAX.0155-34-1287
http://www.sogo-printing.com
E-mail: info.sg@sogo-printing.com

印刷業でありながら、 出版業の道へ大きく踏み出す

ソーゴ印刷の平成30年

高原 淳

「平成×ソーゴ印刷」というテーマをいただいき、正直言って困りました。僕は平成12年(2000年)4月までのソーゴ印刷を知りません。その時代は東京で仕事をしていたので、間接的、断片的に知っているという程度。

当時僕らが経営していた会社は(株)遊文館という雑誌・広告制作会社(東京・西荻窪)。平成元年(1989年)7月創業です。ソーゴ印刷に入社した2000年に休眠届けを提出。創業30年目の今年、正式に解散手続きをとりました。平成最後の今年は、個人的にも感慨深いものがあります。

ソーゴ印刷と遊文館に資本関係はありません。ただ、わずかながら取引関係がありました。最初は遊文館から印刷の仕事を発注。アパレル会社の商品カタログ、小冊子といったもの。某出版社の書籍印刷を発注したこともあります。

逆にソーゴ印刷から受注した仕事はユニークなものでした。1995年、Windowsがまだバージョン3.1だった頃、家系図作成ソフト「家康」をソーゴ印刷が企画・発売したのです。その広告制作と出稿を受注し、「歴史読本」などの雑誌や「西日本新聞」などのブロック紙、地方紙に広告を展開。問い合わせ用のフリーダイヤルも用意し、大々的に売り出すつもりでした。その後のレスポンスがどうだったのかは皆様の想像にお任せします。

2000年前後はソーゴ印刷が出版社への第一歩を踏み出そうとする時期でした。1998年月刊しゅん創刊。ソーゴ印刷初のノンフィクション本『声を聴かせて』(仁田尾さゆり著)は2000年発行。翌年には『おいしいぞ@十勝』を発売。『声を聴かせて』『おいしいぞ@十勝』ともに、東京の出版社を通じて全国出版されました。また、遊文館として企画した「Play Made Factory Tシャツハンドブック」もこの頃の出版物。

「出版は大変なもの」というイメージを持つ人が多いと思いますが、僕は実際に経験してみてもわかってしまいました。事実、ソーゴ印刷では僕の入社するずっと以前から、自費出版物の制作や印刷が盛んに行われていたのです。もちろん、「本を売って利益を生み出す」のは並大抵のことではありません。しかし、本を出版すること自体、簡単ではないにせよ誰にでも可能なことなのです。ソーゴ印刷は昔も今も自費出版に力を入れています。それはもちろん「商売」として行っているという側面もあるのですが、それ以上に社会的意義のある活動だと僕は考えています。誰の人生の中にも、本にすべきストーリー、心を打つエピソードが必ずあるもの。企業も同様でしょう。中小企業にも個人事業主にも、それぞれ波瀾万丈の歴史があり、次世代に残すべき実績や技術があるのです。

こうした自分史や社史を出版物(特に紙媒体)で残していかないと、次世代以降の人たちは自分のルーツや自社の創業時のことがわからないまま生きていくこととなります。また、地域の歴史や文化を書物という形で残していくことにより、自分の生まれ育った地域への愛着心が増したり、誇りが持てるようになっていくのではないのでしょうか?

ソーゴ印刷は2004年の『northern style スロウ』創刊をきっかけに、印刷会社でありながら、出版社への道を本気で切り開いていくことに決めました。それが経営判断として正しいものだったかどうか、現時点ではわかりません。しかし、確信を持って言えるのは、印刷会社の果たすべき役割が大きく変わってきたということ。紙媒体に留まることなく、印刷会社は「価値ある情報を創造、発信、記録する」というところに力を発揮すべきではないか? そのことが明確に感じられるようになったのです。

平成の30年間は、ソーゴ印刷にとって「製造業から情報産業へ」踏み出していく変革期でした。まだまだスロウペースかもしれませんが、一歩ずつ着実に歩を進めていきたいと思っています。

高原 淳

1961年帯広市生まれ。帯広柏葉高等学校、大阪芸術大学芸術学部写真学科卒。1985年より、フォトグラファー、ライターとして活動。1989年雑誌・広告制作会社(株)遊文館設立。2000年5月ソーゴ印刷(株)入社。同年12月代表取締役社長就任。2004年5月雑誌「northern style スロウ」創刊。以来、自社企画による数多くの雑誌、ムック本、単行本、電子書籍を手がける。



主な著作

- 学生と地域企業で働く人のための『激訳・キャリアデザイン』
- 文章を書くすべての人のための『写真的文章作成技法』
- My Life Bookを作りたい人のための『激訳・自分史作成講座』



「ありがとう」の数だけ成長できる。 “もっともっと良い自分” を目指します！

FM WING「月刊しゅんのワッハッハRadio」では、のんちゃん愛称でパーソナリティーを務めている入澤さん。ラジオメンバーの紅一点として、ハキハキと元気な声を届けてくれています。でも学生時代は自分に自信がまったく持てず、人と話すのも苦手。就職先を選ぶにも、できれば頻りに人と関わるような仕事はしたくないというのが本音だったそう。「頭の中にあることを言葉にして表現するのがヘタなんですね。大阪生まれでもそういう人はいるんですよ(笑)」。

雑誌の編集に興味を持って入社したのはいいものの、月刊しゅんのスタッフとして働くには取材活動が不可欠。仕事を通じているんな話を聞かせてもらって、自分の話もするようになって。そのうちに相手のことやお店のことにも興味が出てきて、好きになって。「喜んでもらえるって、こんなにうれしいことなんやって。自分でも役に立てることがあるっていう実感が、少しずつ自信につながっていきました」。かつてそんな悩みを抱いていたなんて思いも寄らないほど、今の入澤さんは誰とでも笑顔で話せる、何事にも一生懸命な“のんちゃん”になったのです。

最近の楽しみは、Amazonの某サービスを利用して昔のドラマを観ること。ベタベタの恋愛モノよりは、主人公が困難に立ち向かい、弱さを克服しながら成長していく過程を描いたような作品が好きだとか。入澤さんの成長ストーリーもまだまだプロローグ。ドラマのようにライバルが出てきたり、裏切りがあったりすることなく、まっすぐな道でありますように…。

ソーゴ印刷 社員紹介 Vol.20

入澤のぞみ

出身地：大阪府堺市
所属部署：月刊しゅん編集部
趣味：ドラマを観る、猫とたわむれる

SOGO information

新年のご挨拶は **ソーゴ印刷の** 年賀状を送りましょう!

デザイナーのおすすめをピックアップ!



デザイナー 高田あかるさん
写真が大きくて、背景がテキスタイル調なのがグット!



デザイナー 濱さん
やっぱりかわいいのが一番!



デザイナー 中高さん
年賀状はシンプルイズベスト派

WEB
受付も
可能



まだまだ使える年賀状はたくさん!
詳しくは月刊しゅん12月号P115をご覧ください。

northern style 新発売 スロウの年賀状

クナウマガジンのデザイナーによる、かわいらしく上品な年賀状が誕生しました。



クナウマガジン
☎0155-38-4188
ご注文・詳細は
右のQRコードから



商品案内

- 月刊しゅん
- kerakaneran
- ぺこごう
- しゅんプラス

エリアマーケティング事業
モニタリング/アンケート/
イベント/座談会 他



- クナウマガジン
- northern styleスロウ
- スロウな旅 北海道
- クナウムック

訪ねて楽しい雑貨屋さん
スロウなカフェを訪ねて
他

市町村版子ビスロウ
Slow Life HOKKAIDO



- 動画コンテンツ企画・制作

AR(拡張現実)システム
企業PR動画
DVD制作



- WEBコンテンツ企画・制作

ホームページ制作
スマートフォン用サイト制作
システム開発



- 印刷・自費出版・各種記念誌

商業印刷
会社案内/ポスター/パンフレット
/DM/チラシ 他

ビジネスフォーム(連続帳票)
パッケージ

包装紙/紙袋/製函
自費出版・記念誌
自分史/俳句・短歌集/写真集
/家系図/社史/記念誌 他